

第7回 教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和8年7月21日（火）午前9時59分
- 2 開催場所 大町市役所 庁議室
- 3 出席委員 教 育 長 中 村 一 郎
同 職 務 代 理 者 下 川 清 志
委 員 北 澤 明 美
委 員 奥 原 圭 永
委 員 小 田 美 恵
- 4 説明のため出席した者
教 育 次 長 飯 島 秀 美
教 育 参 事 坂 井 征 洋
兼山岳博物館館長
学 校 教 育 課 長 渡 邊 哲 也
生 涯 学 習 課 長 —
ス ポ ー ツ 課 長 降 簾 涉
国スポ・全障スポ推進室長 松 倉 康 治
学校教育指導主事 吉 澤 清
学校教育指導主事 —
- 5 事務局 学校教育課庶務係長 西 澤 喜 吉
- 6 傍聴者 — 名

中村教育長：おはようございます。

ただいまより第7回教育委員会を始めたいと思います。

会議録の承認ということで回しておりますが、ご確認の方をよろしくお願いいたします。

それでは最初に教育長報告ということでお願いいたします。

教育長報告 資料により説明

中村教育長：何かこの内容についてご質問等ありますか。

下川教育長職務代理者：先ほどご紹介いただいた岳陽高校の科学部ですが、大町というか大北というか、農業に関連したところに着目して、いろいろやっていて、その土地の高校の一つの姿だと思いました。

私、最近のキーワードは、五感を総動員して、大町のひと、もの、ことを学ぶ。

これは美麻小中のホップ期の1つの目標になっているんですけど。私、それは、大町の学びの特徴かなと思っています。小学校、中学校はそれぞれ、今言ったような形でやってきていると思うんですが、なぜか高校に行ってしまうと、それが継続されてないように見えますが、こういう科学部の活動とか、書道部が地域に出ていろいろやってるっていうのは、まさにそういう活動だと思っています。

高校もコミュニティスクールというか、学校運営に責任を持って関わる部分、それからもう1つの柱である、地域学校協働活動ですね、ああいう活動を岳陽も明確に位置付けて、そのメンバーを募ってやったらどうかなって思ってます。

長野県の高校でコミュニティスクール活動やってるのは白馬高校だけだって聞いていて、他の高校には広まってないので高校でやるにはいろいろ難しいことがあるとも思っています。

大町のコミュニティであれば大町市で閉じるんだけど、岳陽はどこまで広げるんだ、場合によっては松本の人も来てるかもしれない。だから、エリア的には広いのがまた1つネックになるのかなと思ってはいるんだけど、いずれにしてもやっぱり、地域に岳陽の子供たちが出ていっていろいろ活動する中で、地域の人も学び、岳陽の生徒もいろいろ学ぶ、そういう機会を増やすような仕組みがあればいいかなと思いました。

この科学部は本当にいい視点で捉えていていいなと思いました。

ああいうことを本当に新聞等でどんどん発信してもらうのも必要かなって思いました。

今までやっててもそれが何かこう伝わってきてない。

アジア・アフリカ難民支援活動は定例的にやってるのでいいんですけど。

それ以外にもいろいろやってくれてると思うんで、そういう発信もぜひしてほしいとそんなことと思っています。

中村教育長：校長先生が市川校長先生になられてから、だいぶ岳陽もいろんなことを、マスコミに発表とか発信してるかなあということは、とても今年1年特に感じています。また今日もそのようなお話も出てくるのではないかなというふうに思っています。他にはいかがでしょうか。

奥原教育委員：3日の八坂中のS君が来てっていうのは、例年こういうことがあったのか、またどんなきっかけで、この結果、今後に向けて何か繋がっていくようなことがあったのかその辺のお話を聞かせてください。

中村教育長：始まったのは去年からです。

去年、やっぱりこういうのを一生懸命やっているお子さんがいて、その子がぜひ、教育長にも話したいっていう、そういう思いで。その下にいたのがこのS君なんですけど、やはり先輩を見て、自分もこうしたい、ああしたいっていうところが、どんどんと夢が広がってきて、やってるんだろうなと思いますね。

多分八坂がすごく、今、子供たちの様子が変わってきている、良い意味です。

すごく外交、外に向かっているんですね。

今までどちらかというと八坂の子って内向きの子たちがすごく多くて、ですので不登校の問題とか、そういうこともとてもありました。それも根強い、結構その問題だったんですけどそれがここ数年変わってきました。

それはもう子供らがかなり外に、向いてくるようになってきている。

ですのでこういう自分たちが企画して、いろんなことをやろうというのが、本当にとっても積極的になってきたなと思いますし、それに伴って、子供たちのプレゼンテーション力とか、会話力、そういうものもすごく高まってきていて、だからやっぱりこういう姿っていうのは、とてもいい傾向だろうなということは思います。

その分、先生たちもいろいろサポートしてるのは事実ですけど。

奥原教育委員：もちろん学校の中で、担任なり学校長なりのいろいろな支援というか、意見があってそれで教育長のところに来てるっていうような感じですか。

中村教育長：多分、子供の思いが先だと思います。

子供がこのことを教育長に話したい、どうしたらいいかって先生に相談して、先生がアが取るとかのいろんな指導していくっていう形かなと思います。

奥原教育委員：それによって、八坂の子供の気持ちを受けとめて、市として何かこう、何かの方向へと動き出すようなことがあるのか、意見を一応聞いただけで終わっているのか。

中村教育長：聞いて、自分の考えを言ったり、自分の願いを話したりっていうのが主で、たまたまこの時には、夢フェスで市内で場所を借りて、そこで自分たちの人間塾で学んだことを発表する。そして、作ったものを販売するという計画できてるものですから、それに対しての広報について相談に来たんですけど。

自分の方で言ったのは、今たまたま観光課の方で、地域協力隊が 2 人みえてるものですから、その方を紹介して、いろいろな会場のデザインとか、かざりつけとか、どんなふうにしたらもっと皆さんに目を引けるか、そんなこと相談してみたらって言ったら、すぐ相談に行っていて、それで実際に学校にもそのお二人に来ていただいて、子供たちと話をしたそうです。そこちょっと自分の方では繋いだけなんですけど、やっぱりそうやって、子供らも地域の人との関わりづくり、関係づくりっていうのを本当に積極的にやってそれをまた取り込んでもいこうっていうそういう姿勢もすごく育ってきているんじゃないかなということはずごく、今回のをやってみて感じてますので、彼は 8 年生なので来年は最上級生になるからその下にまたその彼の姿を見た生徒が育って来てくれれば、繋がっていく部分があるのかなっていうのは思います。

それで地域の方たちもそこに八坂人間塾の場合はみんなに関わってきてます。

そういう良い循環が、どんどん繋がっていけばいいかなあと思うんですよ。

教育委員会としての課題は、それを支えるのは先生なんですよ。

だから先生たちがそこをどうやって関わりをうまく作っていけるかというのが、今後の教育委員会としての課題だと自分は思ってます。

奥原教育委員：教育長は本当にご多忙な中で、そういう対応をされてるってのは、本当にきめ細かい、個々の学校の生徒の対応していただけるってことに、すごいなと思ってるんですけど、そこで話したことはまた学校長にフィードバックしたりとか、そんなこともあるんですか。

中村教育長：特に今回学校長とは話をしていないんですけど、担当の平林先生がついてくるので平林先生とお話して、そこでまた、行ったときにはまたいろいろ、その後どうなったか情報交換をしたいです。

奥原教育委員：先生も来られているんですね。

中村教育長：もちろんです。来てます。

奥原教育委員：わかりました。ありがとうございました。

北澤教育委員：8 日の八坂小中の授業クリニックですが、私、授業とそれから後の先生の懇

談会にも出させていただいたんですけれども、授業は1年から3年までの、一緒に授業っていう授業で、道徳の授業でした。

三枝先生が担当されてたんですけど、最後に先生が懇談会のときにそれぞれの学年の先生たちの、よかった点とかこういうところをちょっと工夫したらというようなこともアドバイスをしてくださって、そういう中で、やっぱりちょっと、少し情緒不安だったりするお子さんがいたりするんですが、その時は、教師がちょっとトーンを下げて会話することで、不安定な子が安定するとか、そういう普段全然知らない部分というのを先生が教えてくださったので、何かそういう、子供達の子供の見方っていうか接し方っていうか、そういうところって、多分そういう部分って学校で学んだだけでは、得てない部分だと思うんですよね先生たちも。こういう授業クリニックで、そういう部分で本当に細かく指導していただけてすごいありがたいなと思いました。

今すごいAIの時代なんだけど最後に、自分の言葉を使えないで、AIを使うとAIに使われる人になるけど、自分の言葉が使えていて、今度AIを使う人になるというようなことをおっしゃっていて、やっぱりその時代に即して大事な部分で。

今、この大町市でやってる協働の学びっていうのは、まさにこの自分の言葉を使える子供を育ててるんじゃないかなっていうのを思って、すごい大事な部分なんだっていうのを改めて感じました。

この後、その日の夕方にカリキュラムマネジメント推進委員会があったってことでその先生方が授業を見に来られてたんですけども、どんな先生方の感想があったか少し何かお話いただければと思います。

中村教育長：まず三枝先生が1年から3年までを全部合同の授業したんですけど、あれって、自分で思ってみると、はるか昔、学校で先生たちが共同参観して、お互いにその先生から学び合うということをしてたんですけど、それを本当に、やってるんだろうなと思ったんですよ。

要は1年2年3年を担当している先生方まだ若い先生たちなので、要は協働の学びもわからない、子供たちの対話をどう作っていくかっていうこともよくわかってない。

子供らが主役の授業ってのは一体どういう授業なのかってこともわかってない。

そういう先生に対して、三枝先生は、自分なりに勉強したことを、その1年3年生に全部提供する。それを若い先生たちが見て、学び合うという、それをずっとやってきたんですよ。あれはだから、単に突然あれをやったわけじゃなくて、4月からずっと積み上げてきた状態での授業公開になっていますので、ですので、ああいうことで若い先生たちも、八坂の授業について学んでいってくれるなということは思いました。

それから、カリキュラムマネジメントの中で話が出たのは、先生方の大きい学校、例えば北部小から来た先生方は、あれは大きい学校小さい学校関係ないと。

人数が多かったって、ああいう形で合同でみんなて授業をやることは、できるねっていう話を

されてきました。

ですので、八坂のあの授業が八坂ならではの授業じゃなくて、ああいう一人一人の子供たちに配慮した授業というのは、どんなに人数が多くなったって、できるよねっていう、そういう話を自分のいたグループの中でそう言ってました。

吉澤学校教育指導主事：カリキュラムマネジメントのディスカッションは、グループごとでやったのでそれぞれのグループで、様々な意見が飛び交っていましたがけれども、やはり、三枝先生がほとんどしゃべられ、だけど、子供たちは、きちんとその問いに対して答えようとしているっていうところが、やっぱり授業のポイントになってたんじゃないかなというところが出ていたかなと思います。

今、八坂小中の方で、感想の集約をしておりますので、もし必要であれば、提供することができますので、よろしくお願いします。

下川教育長職務代理者：この前の学校訪問の時に三枝先生の同じ授業を見て思ったのは、子どもたちを引き込んで心をつかみ、子どもたちが興味を持って、自分の思ってることをつぶやく、思わず発言してしまう、そういう環境を作っている、そしてそのつぶやきを先生がうまい形で、広げていってるように思いました。

子供たちの人数が多くなったときに、そのつぶやきの拾い方をどうするか。

多分、先生としてはいろいろ、子供たちが言うてる中で、これはちょっと取り上げてみんなて話し合うみたいな、そういう、うまい形でやっていると思うんですが、人数が多くなったときにそれができるのか。

それがよく言われる個別最適な学びと協働的な学びの一体化をうまくやるっていう、そこにも通じる授業づくりをどうするかっていうのを見ていきたいと思います。三枝先生の授業について言えば、確かに本当につぶやきに、「そうだよね。それ、みんなどう思う？」みたいなそういうやり方が、人数が多くなったときにどうやるのかを知りたいと思いました。

吉澤学校教育指導主事：人数が多くなった時につぶやきを全部拾うのは難しいので、必ず子ども本人の記録を残していけないといけない。それを毎時間やっているの、それが残っていきますので、すべてのつぶやきを拾うというのはいかないんですけど、子どもたちの思い考えが残っているということですね。子供たちも慣れてくると、それが当たり前になるので、書けるようになってきますので。

中村教育長：マインドマップっていう、それが1つの本当に要は心のマップですよ。

自分たちの思ったこととか感じたこと、残していく。そういうことなんです、書くことが。だいぶ今大町の子たちはもう当たり前になってきてるので、短時間で二、三分もあれば本当に、結構な量を書く子供たちが多くなってきたなと思います。

下川教育長職務代理者：そうすると先生はそれを後で見て、こう思ったんだっていうんで、あとフォローしたりしているんですか。

吉澤学校教育指導主事：1枚の紙に單元ごと続きで書いていくので、子供たち自身も自分の気持ちの変化を見ながら読み取ることができる。

中村教育長：それを使って八坂小中学校では、今回の個別懇談をやりました。保護者懇談。たぶん今週あたり、新聞でも出てくると思います。

北澤教育委員：7年生の父兄の方に聞きましたけど、子供が司会をして親と子と先生と、僕は1学期こんなことを頑張ってきたけど、それについて先生はどうでしたか。みたいに司会をしてやってたっていうので、それはそれですごくよかったって、保護者の方も言っていました。

下川教育長職務代理者：今回初めて実施した三者懇談会については、まず子供たちに、教務主任の先生がやりかたを説明した。懇談会をこういうふうにするよって。みんなが主役だよって、みんなの言いたいことを言っていんだよって、親とか先生はそれを聞く立場だよっていうことを、分かりやすい資料で説明した。その日の夕方にすぐ一で保護者に、懇談についてはこういう趣旨でこうやって子供たちに言いました、だから皆さんもそれを理解して来てくださいと伝えた。

このような動きはいいなと思い、矢口教頭先生に電話で伝えました。

中村教育長：あれを担当したのは教務主任です。教頭校長がやるんじゃなくて、あの役割は教務主任にやらせたんです。そうすることで、教務主任が、要は学校運営全体のことを考える、そういう場になって、子供らにどう伝えたら、子供たちがわかってるかっていうことを、教務主任はそこで勉強できる。そういうようなプロセスで、八坂小中学校でやってくれたようです。

小田教育委員：市長がやはり変わったということで、今年教育大綱出したところだと思うんですけど、変わってまだご挨拶とかいろんな業務があるところで、この後市長にいつ、教育大綱に目を通していただいて、何かそういう進めることはどうなっていますか。

飯島教育次長：来週の27日にそれぞれの担当部長から市長さんへ引き継ぎのことですか、そういうことをご説明する機会がありますので教育大綱はお渡しする予定です。ただ、そんなに時間が取れるわけではないので、ある程度レクさせていただきながら10月

の総合教育会議が本番になるのかなとは思いますが、一応そこではご案内はしたいとは考えております。

中村教育長：少しずつかなとは思ってるんですけど。今度新しい柳原市長さんも、考えてるのは挑戦。僕はそう捉えました。挑戦ということを挙げて、それはただ単にみんな何かを改革することではなくて、やっぱり今自分たちのやっってることを見直しながら、新たなものを作り上げていく、そういう姿勢でぜひ取り組んで欲しいっていう、そういうお考えなのかなと思っています。まだ自分もお話をしっかりしたわけでもないんで、今後はいろんな機会を通して、また柳原市長さんともいろいろお話しながら、柳原市長さんの教育に対する考え方、そんなところもまた、知ってかなきゃいけないかなというふうに思っております。

下川教育長職務代理者：第6次の総合計画の審議会が始まっていて7月27日に第2回があります。具体的な内容も出てくると思うんですが、教育委員会の案は、もう皆さんの方で、企画財政課の担当の方に提出している状況ですか。

飯島教育次長：6次総の関係につきましては、それぞれ庁内で、教育委員会ですと教育部会というのを作っておりまして、それぞれ各課の係長たちの方で基本構想案を作っていたいてありまして、それをまとめたものを企画財政課には提出してございます。その総計審の中で、そこをもんでいただくような話になってるかと思います。

中村教育長：それでは、まず最初に報告事項ということで、学校における事故、事件事故等について、説明の方お願いいたします。

渡邊学校教育課長：学校における事件・事故等について 資料により説明

〔内容非公開〕

中村教育長：それでは議事に移りたいと思います。

議案第16号、令和8年8月1日付、教育委員会事務局職員の人事異動について、お願いいたします。

西澤学校教育庶務係長：議案第16号、令和8年8月1日付 教育委員会事務局職員の人事異動について 説明

松倉国スポ・全障スポ推進室長：議案第16号、令和8年8月1日付 教育委員会事務局職員の人事異動について 資料により説明

中村教育長：今のご説明の方をしていただきましたが、そのような理由で、このような人事異動の方が行われることになります。

何かご質問ございますか。

〔質問 なし〕

中村教育長：よろしいでしょうか。

それでは議案第 16 号ですが、8 月 1 日付け教育委員会事務局職員の人事異動についてこの内容でお認めいただけますでしょうか。

〔全員 承認〕

中村教育長：ありがとうございます。

それでは 4 ページの議決のところに、今日の日付の記入をお願いいたします。

以上、議事の方は終了となります。

それでは連絡事項ということで、当面する日程についてお願いします。

西澤学校教育庶務係長：連絡事項 資料により説明

中村教育長：他にはよろしいでしょうか。

〔発言 なし〕

中村教育長：ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、第 7 回教育委員会の方を終了とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

《午前 11 時 20 分 終了》